

第3回オンライン診療の適切な実施に関する指針の見直し検討

茨城県つくば市 つくばハートクリニックと遠隔医療推進 ネットワークのオンライン診療の取組

NPO遠隔医療推進ネットワーク

理事長

萱橋 理宏

2019.03.29

総務省「オンライン診療の普及促進に向けたモデル構築にかかる調査研究」

参加実証フィールドの概要

実証フィールド2：茨城県つくば市 代表団体： N P O法人 遠隔医療推進ネットワーク

実証地域におけるこれまでの取り組み



タブレット端末を使って、久保山医師の診察を受ける患者

病院で診察する医師
電子聴診器で離れた場所にいる患者の心音を確認することも可能



出所：毎日新聞

【実証地域の特徴】

- これまで独自で立ち上げてきた知見、ノウハウ、成果の活用
- **地域のケア人材のリソース（訪問看護、訪問介護、民生委員等）との連携によるオンライン診療のあり方の検討**

＜地域特性＞

医師数が全国で2位・看護師数が全国4位の低さ
心疾患・脳卒中による死亡率が全国平均より高い
公共交通機関が少なく、生活には車が必要
高齢化が高く、免許返納により、定期的な通院が困難になる地域が多くある
在宅医療を受けられる医療体制の整備、救急医療体制の整備の要望が多い
医療従事者の地域偏在や診療科の偏在、県外流失などが問題

＜つくばハートクリニック及び遠隔医療推進ネットワーク＞

- 5年前から遠隔診療を導入
- 脳卒中予防のために、24時間ホルター心電図検査を無料でを行い、検査の結果をタブレットを使用し説明している
- 脳卒中予防や遠隔医療の勉強会を開催（30回/年）
- 久保山医師は、2016年厚労科研「我が国に於ける在宅患者に対する遠隔診療の有効性に関する研究」の共同研究者

参加実証フィールドにおける調査結果

フィールド2：遠隔医療推進ネットワーク

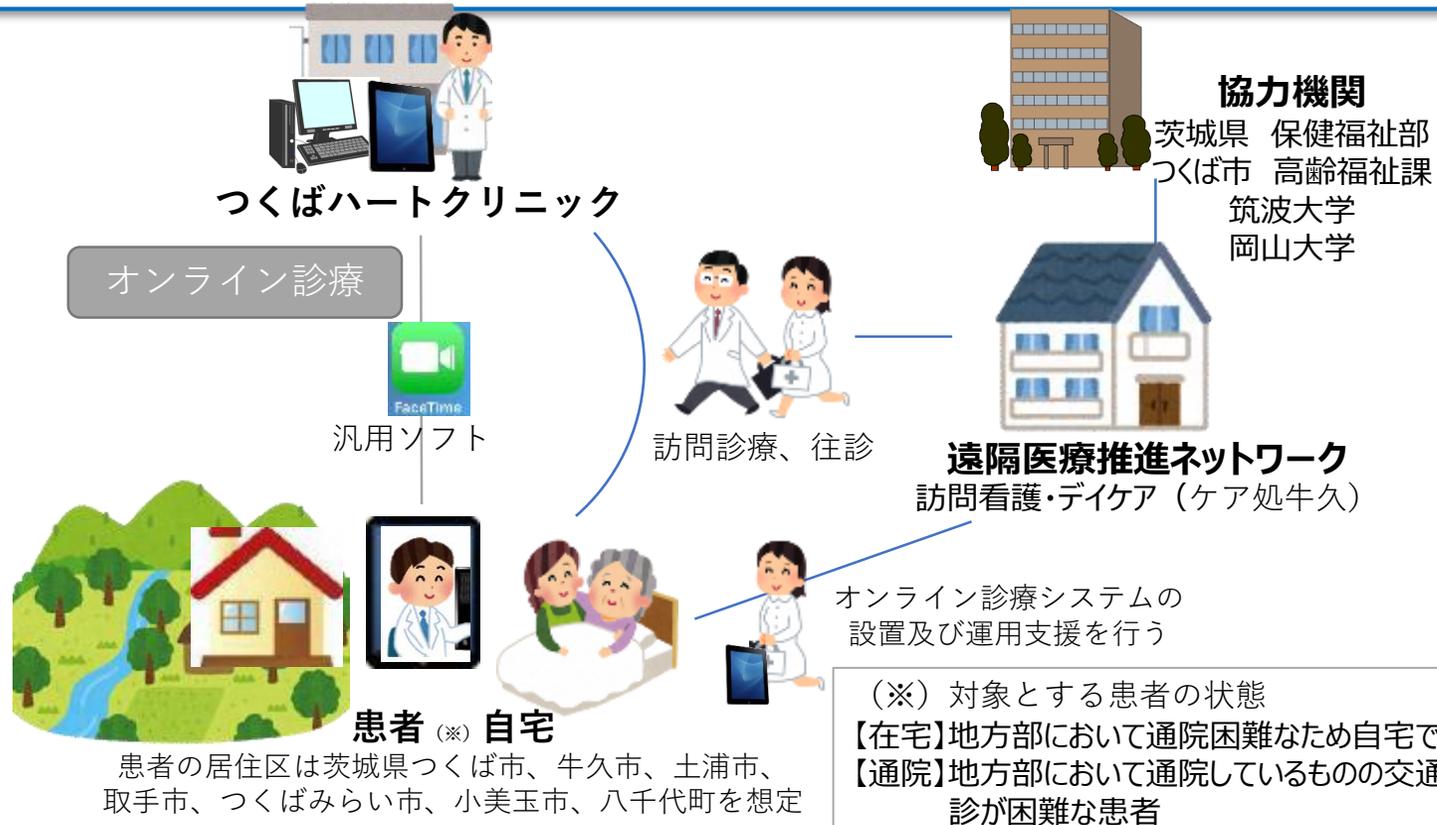
1) 実証の概要

オンライン診療の質向上に貢献する訪問看護師介在モデルおよび地域包括ケアの構築の検証を行う。

実証フィールド：茨城県つくば市（代表団体：遠隔医療推進ネットワーク）

対象患者：地方部において 在宅診療を実施している患者、通院しているものの交通手段の問題から、定期受診が困難な患者（免許を返還した高齢者等）（対象者13名に オンライン診療を実施：回数は患者により異なる）

実証フィールド特有の検討・検証項目：オンライン診療の質向上に貢献する **訪問看護師介在モデルおよび地域包括ケアの構築に貢献する支援者介在モデルの検証**。また、地方部の診療所においては、月数万のオンライン診療システムの利用料を捻出するのが難しいとの意見もあるため、**汎用ソフト（FaceTime等）を利用するケース**として、運用面や安全面について検証。



参加実証フィールドにおける調査結果

遠隔医療推進ネットワーク

2) 対象とする患者像・症例数

- 前提条件（地方部において通院困難なため自宅で療養が求められる患者または通院しているものの交通手段の問題から定期受診が困難な患者）に合致する患者のリクルートを実証フィールドが実施した。結果として13名から同意を取得し、オンライン診療を実施した。
- また、今回の実証では、医師と看護師で事前に確認した上で、**安定している患者については介護士**をサポートとして派遣し、**基礎疾患を複数持っており状態変化に注意が必要な患者、経鼻的持続陽圧呼吸療法（CPAP）や在宅酸素療法（HOT）など使用しており状態変化の確認が必要な患者については訪問看護師が対応**することとした。

診療形態	該当する診療報酬	#	診療方法	医学管理料 (対象疾患等)	患者プロフィール	実施人数	備考
情報通信機器を用いた診察	<ul style="list-style-type: none"> オンライン診療料 オンライン医学管理料 	1	外来	<ul style="list-style-type: none"> 特定疾患療養管理料 生活習慣病管理料 難病外来指導管理料 	<ul style="list-style-type: none"> 通院困難な高齢者 生活習慣病（高血圧症、慢性心不全、糖尿病など）患者 	10	
	<ul style="list-style-type: none"> オンライン診療料 オンライン在宅管理料 	2	在宅	<ul style="list-style-type: none"> 在宅時医学総合管理料 	<ul style="list-style-type: none"> 在宅医療の高齢者 	3	
情報通信機器を用いた遠隔モニタリング	<ul style="list-style-type: none"> 在宅患者酸素療法指導管理料（遠隔モニタリング加算） 在宅患者持続陽圧呼吸療法指導管理料（遠隔モニタリング加算） 心臓ペースメーカー指導管理料（遠隔モニタリング加算） 	3	外来	-	<ul style="list-style-type: none"> CPAP患者 HOT患者 心臓ペースメーカー植え込み患者 	3	オンライン診療と重複

参加実証フィールドにおける調査結果 遠隔医療推進ネットワーク

3) 運用手順の検証 ③運用手順における課題・留意点

診療形態	運用手順	課題・留意点
オンライン診療	診療前準備	<ul style="list-style-type: none"> 訪問看護師が患者宅に訪問するスケジュールを立てているので、実施前日には、診療所から患者にリマインドの電話連絡を入れている。 オンライン診療の実施にあたって、高齢者が単独で行うのはハードルが高い（機器の操作など）ため、訪問看護師が機器を持参して患者宅を訪問し、準備完了後、医師に開始の連絡をする。
	オンライン診療支援	<ul style="list-style-type: none"> 訪問看護師が患者宅に補助に行くことによって、患者のバイタルサインや医学的状態を伝えたり、患者が前回処方した薬をきちんと服用しているか確認や残薬の確認することが可能。 患者の自宅に訪問することで、実際の生活環境を医師と医学的情報共有することで、実際の生活に合わせた食事指導等が可能になる。
	処方	<ul style="list-style-type: none"> 院内処方では、前回と同じ薬を処方する場合には、訪問看護師が持参、配薬する。薬の分量の調整が必要な場合には、クリニックにて再度、調合してから訪問する。

6) 実証フィールドのまとめ

1. 実証フィールドにおける成果

- 汎用システム（FaceTime）を用いたオンライン診療を実施したが、診察の障害になるような通信問題は発生せず、医師・患者双方コミュニケーションに不都合が生じることもなかった。
- **スマートフォン等の操作が困難な高齢者**の患者が多かったが、端末の準備から診療のサポートまで対応することで、滞りなくオンライン診療を実施することができた。

2. 実証フィールドにおける課題

- オンライン診療システム支援者に求められるものとして、患者宅に訪問し実施するため、**患者との関係構築**が挙げられた。患者とコミュニケーションを普段からとっている訪問看護師であればスムーズにオンライン診療の支援を行うことができる。主な支援内容は、患者の生体情報等の観察と医師への伝達、服薬状況の確認や食事の指導等である。

3. オンライン診療の普及と発展のための提案

- 対面診療に比べ得られる情報が少ないオンライン診療においては、**訪問看護師がサポートすることのメリット**（医師が看護師の五感を補助的に活用すること、看護師特有の業務の実施、患者の変化に気づける部分など）を活かすことができるのではないかと考えている。
- **地方部でのオンライン診療の実施には、対象者に独居の高齢者が多いため、サポートする体制が必須**である。看護師の多様な観察能力や指導能力が、遠隔の医師を大きく支援する。